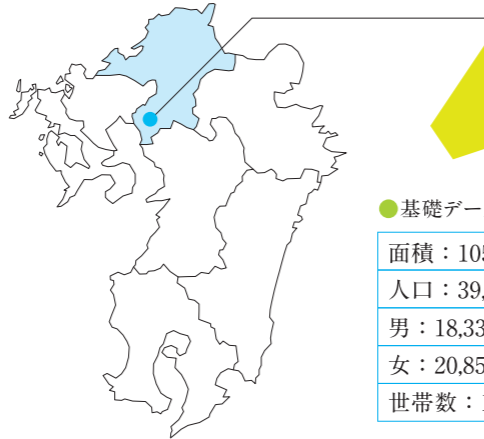


福岡県みやま市



清水寺三重塔



みやま市

●基礎データ

面積：105.12km ²	平均気温16.1℃
人口：39,185人	年間降水量1,876mm
男：18,330人	年間日照時間2,020時間
女：20,855人	
世帯数：14,161戸	(2015年9月末日現在)

福岡県の南部にある「みやま市」は、一部は熊本県と接する地域で、東部には御牧山、清水山などの丘陵や山系が連なり、西部は有明海の干拓によって開かれた低地があります。自然環境に恵まれ、温暖多雨な気候の田園都市。四季折々の表情を見せる美しい自然、肥沃な土壌が育んだおいしい作物、歴史やロマンを体感する史跡や文化財、これまでの暮らしに息づいてきたものを大切に継承し続ける人々。たくさんの温もりを感じ、こころ満たされるコト・モノ・ヒトに出会うことができるまちです。

みやまへ出かけてみんね♪



農産物

古くから福岡県の代表的な農業地帯として知られ、それぞれの地域の特色と温暖多雨な気象条件を生かし、たくさんの農産物が栽培されています。きれいな水域で育ったお米、西日本一の生産量を誇るセルリー(セロリ)、農林水産祭で天皇杯を受賞した「なす」、全国的に知られる「みかん」「すもも」など、愛情と情熱を持って生産に携わる人たちが育てています。



清水寺

四季折々の景色が美しい庭園。室町時代に雪舟が中国で学んだ山水技術を生かして築庭されたと伝えられる「清水寺本坊庭園」。心字池を中心に定石を配置し、池には滝を注ぎ込ませるなど、自然と人工の美が調和した庭園は、国の名勝庭園に指定されたほど。四季折々の趣ある表情を見せる場所で、なかでも紅葉(イロハカエデ)はひととき美しく、圧巻の景色です。



歴史

古くは邪馬台国ゆかりの地であり、貴重な遺跡や古墳が残されています。また、壇ノ浦の戦いの後、源平の最後の激戦地であり、今その平家の伝説や言い伝えが残る「平家の里」としても知られています。町を縦断する旧街道筋では、江戸時代には道中大名の休憩所や馬役所が設けられ、宿場町として栄えました。培われた歴史・伝統・文化は、継承され続けています。



祇園祭(大蛇山)

毎年7月に高田町の江浦町・渡瀬地区の2カ所で行なわれる祇園祭。独特のリズムで太鼓や鐘を打ち鳴らし、高さ4m近くもある大蛇山が火を吹きながら地区内を練り歩きます。昼間は地元の子供たちも参加して、大蛇と一緒に町内を練り歩き、日が暮れてからは一変して、青年たちが火を噴く大蛇と共に町を練り歩きます。高田町の年間行事の中でも、最も勇壮な祭りです。

みやまのものづくり



筒井時正玩具花火製造所

長い歴史をもつ、日本で数軒しかない国産線香花火の製造所。こだわった原料と製法で作る温かみのある線香花火を守り続けています。はかなくも美しい国産花火の魅力は、全国からも注目を浴びています。



内野樟脳

日本に残る最古の樟脳工場。九州産のクスノキから削り出したチップを高圧で蒸し、水蒸気を冷却することで出来る結晶を脱水・脱油して天然の樟脳が完成。自然が生み出す樟脳からは、清らかな森の香りがします。



荒木製蠟合資会社

江戸時代から続き今では日本に3軒しかない木蠟(蠟燭)の製造所。蠟の実から抽出した蠟は、100%天然由来のため口に入れても害はなく、医薬品や化粧品などの原料となり、国内外に広く出荷されています。



日本初、エネルギーの地産地消都市

人が人を支えるまちでありたい



福岡県みやま市が挑戦していること

みやま市は地政学的に恵まれた日照量を生かし、太陽光発電などの再生可能エネルギーを中心に電力の地産地消を通じて環境保全・市民サービス充実を目指しています。エネルギーをきっかけに、暮らしやすく楽しく安全なまちづくりについて、世代を超えた市民が自らの手で未来のみやまを創り始めています。



みやま市環境経済部 エネルギー政策推進室

〒835-8601 福岡県みやま市瀬高町小川5番地
TEL 0944(63)6111(代表) 0944(64)1545(直通)
FAX 0944(64)1546 E-mail energy@city.miyama.lg.jp

公式ホームページ <http://www.city.miyama.lg.jp/>

受賞活動について <http://miyamacity.jp/>



自然と市民のエネルギーが みやま市をつくる

みやま市は福岡県の南部に位置し人口約4万人の平地の多い穏やかな土地です。市民は世代を超えて共に支えあい郷土愛を育むことで、まちづくりにつなげています。市民の多くが参加してみやま市の未来を創造していく日本初となる活動を続けてきています。

みやま市のリ・デザインに取り組む中で、創意工夫した点は次の3つです。
①取り組み内容を全市民にわかりやすく伝えて共感してもらう方法②それを継続する場を作り、新しい気づきを生む仕掛けの提供③市民ひとりひとりのコミュニケーション接点を構築する

こと①については、約150の行政単位での自治会的な集まりを通じて、これからのみやま「エネルギーとしあわせの見えるまち」について説明を開始しました。その後、共感を得られた人による隣近所への口コミで活動の輪を広げました。また、小中学校の子供達へも取り組みの説明を行ったことから、家庭での話題につながりました。②は、サービスの内容説明や、さらに新しいサービスへの気づきや要望について、住民の小さなコミュニティ単位を広く何度も開催して全員参加型で進化させていく計画です。③は、ICTをフル活

用し、情報リテラシーの向上に取り組んでいます。

「みやまに住んでいて良かった」市民ひとりひとりがデザイナーとして、自らが幸せを表現している、そんなみやまに住んでみたい。わたしたちは、市政とつながり、地元商店街とつながり、わたしたちが自慢できる農作物を生産している農家とつながり、産業とつながり、そしてわたしたちがコミュニティを作って絆を進化させていくことで、まちをさらに楽しく、快適に、便利に、幸せにしていけることを目指しています。



2070世帯に
タブレット配布



HEMSプロジェクト
講習会



子供達からの
活動提案



住宅用太陽光発電の
普及



高齢者同士が
見守り合う



子育てママがサービスの
魅力を発信

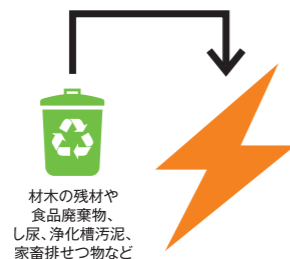
環境保全

自治体がメガソーラーを所有



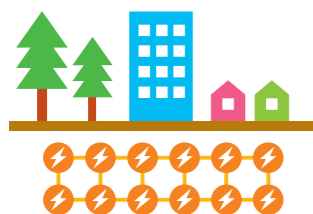
総容量/5MW

バイオマスを使った循環
2014年「バイオマス産業都市」に選定



材木の残材や
食品廃棄物、
し尿、浄化槽汚泥、
家畜排せつ物など

住宅用太陽光発電の
設置促進



電気自動車の推進

災害時は避難所で電力供給源として使用



小中学校等の公共施設で
太陽光発電に関する環境教育にも活用

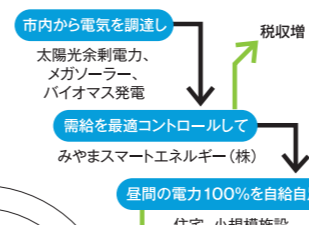
電力+ICT

WEB商店街でショッピング



お年寄りから子供まで
誰もが手軽に楽しく
サービスを受けられる

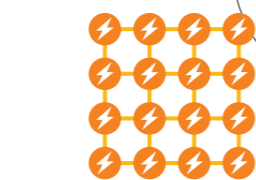
電気の地産地消



昼間の電力100%を自給自足

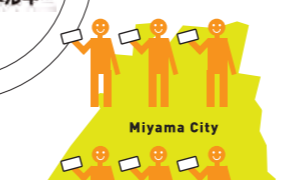
住宅、小規模施設、
公共施設、産業施設
節減分を産業投資に

自治体による会社
みやま
スマートエネルギー



電力・ビッグデータの活用
2014年「大規模HEMS情報基盤整備事業」開始

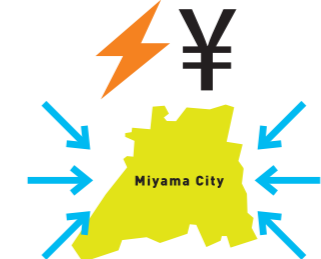
幹事企業
東日本電信電話株式会社、KDDI 株式会社、
ソフトバンクBB 株式会社、パナソニック株式会社



みやま市民全員でつくる
地域コミュニティ

地方創生

電気料金が安いみやま市
市外から転入する人や企業の増加



観光客が増加する
みやま市



高齢者が安心できるみやま市
子供たちがお年寄りに教えるICT



子育て世代が集まるみやま市
新しいまちづくりへの熱心な取り組み

